



川での活動前にスライドを使って目的を共有

生き物はみんな「つながっている」
このイベントでは、魚の生態を通して、①生き物はみんなつながっていること、②生き物にはそれぞれふさわしいすみかがあること、この二つを改めて伝えたいと考えました。川は、水際の形状、水流、深さ、植物の繁殖や砂・石の状態など場所によって状況は異なります。魚はその違いによりすみか、体のしくみや形も異なります。また、必要となる餌も魚によって異なり、生き物を守ることは、餌となる生き物、さらにその生き物の餌やすみかなど、つながりを考えることが大切です。

活動の目的を共有するため、まずは、宮ノ陣クリーンセンター環境交流プラザ内の大会議室でスライドを使って一緒に考えるところからスタートしました。生き物は互いに食べる、食べられるという関係であることについて、「近くの川の生き物ではどうなっているのかを実際に調べに行こう」ということで、こちら水辺の楽校に向かいました。

水辺の楽校の川の中は、様々な環境があり、多くの種類の魚が生息しています。参加した子ども達は二人組になり、網を持つ担当、魚を網に追い込む担当に分かれて魚を捕まえます。魚は「流れが速い場所にいるのか？」「植物の影にいるのか？」「岩の近くにいるのか？」など想像しながら、それぞれ捕獲を試みます。子ども達は、川の中で滑ったり、こけたり、悪戦苦闘しながら、魚やカエルを捕まえました。すると次第に、川には、魚だけでなく、植物、底生生物、昆虫も生息し、鳥も来るのがわかってきました。



魚を捕まえられたか、網の中を覗く子ども（こちら水辺の楽校）

捕まえた魚
約三十分の活動で、スゴモロコ（コウライモロコ）、ドンコ、ニゴイ、ムギツクを捕まえ、魚の他にも、アメリカザリガニ、ヌマガエルを捕まえました。では、この中で、宮ノ陣ビオトープに生息できる魚はどれでしょう？捕まえた魚の生態を解説し、一緒に考えました。（次のページへ続く）

【 宮ノ陣学びのビオトープ ご利用案内 】

住 所 〒839-0805 福岡県久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地
開園時間 9:00～17:00
休 園 日 毎週水曜日（休日の場合は翌日）、12月29日～1月3日
アクセス （車）国道322号沿い、駐車場有り （電車）西鉄古賀茶屋駅から徒歩約15分

宮ノ陣ビオトープ新聞

発行

くるめハイトラスト株式会社

久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地
〒839-0805 TEL0942-27-7515

協力

株式会社エコプラン研究所

宮ノ陣学びのビオトープから生き物や季節の情報をお伝えし、豊かな久留米市の将来へのライフスタイルを提案する新聞。

第2号

（2016年12月）

宮ノ陣学びのビオトープ

2016年9月創刊 季刊

魚よ、元気に泳げ！

生き物にはふさわしい「すみか」がある
流域の魚について、学べる場所に！

平成二十八年四月に整備された「宮ノ陣学びのビオトープ」の池に流域の魚を生育させるため、市民が自ら魚類を捕まえて、それを放流するイベントが、十月一日（土）に開催されました。穏やかな秋の日に、子ども達の賑やかな声が学びのビオトープや水辺の楽校に響き渡りました。



こちら水辺の楽校で魚を捕まえる子ども達

「宮ノ陣学びのビオトープ」は、地域の生き物について学習できる空間として整備されました。生き物が生息・繁殖できる基盤は工事で行いましたが、植物以外の生き物については、遷移に依存させたり、流域の生き物を移したりして、地域の生き物を身近で観察できるようにしていきたいと考えています。

その第一弾として、筑後川水系の河川に生息する魚類を捕まえて、放流するイベントを十月一日（土）に開催し、五組十七人が参加しました。

魚を捕まえる場所は、市民の親水空間として整備された「こちら水辺の楽校」（筑後川水系高良川）です。直前の降雨により増水し、川の中には入れなくなると思われましたが、短時間の雨だったこともあり、無事に活動できました。実際に川に入って、網を使って魚を捕まえる前に、安全に川で活動するための研修や捕まえ方のコツを学んでから川に入りました。最初は怖々だった子ども達も少しずつ慣れ、「捕れた！」という声も増え始めました。

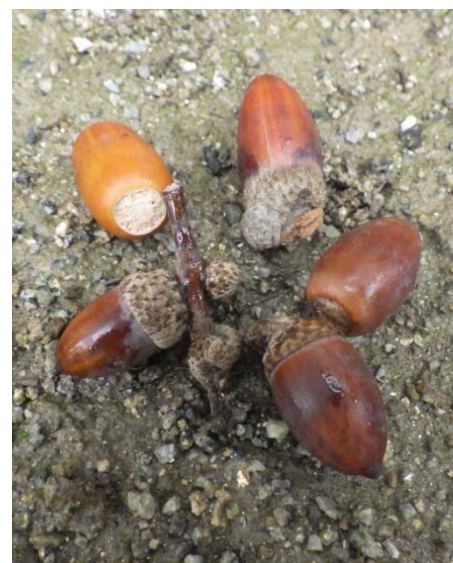
ほうりゅう さかな み い 放流した魚を見に行こう！



池の中をそ〜っとのぞいてみよう！
寒い時期はかくれているよ



常緑高木で、九州に多く分布します。葉は厚みがあることから、沿岸の防風林として植えられたり、神社などで延焼防止のために植えられたり、まちの緑化として植えられます。毎年秋にドングリを実らせ、長さは二〜三センチになります。ドングリは、果皮が木質で硬く、種子を含む果実です。帽子のような形をした「殻斗（かくと）」は瓦のような模様になっています。工作に使われたり、かつては加熱して食用にされたりもしていました。宮ノ陣学びのビオトープでは、他にも、アラカシ、クヌギ、コナラがドングリを実らせます。



マテバシイのドングリ

マテバシイ

宮ノ陣学びの
ビオトープの木

魚の生態の話を聞く子ども達

生き物にはそれぞれふさわしいすみかがある
活動で捕まえた魚は、宮ノ陣学びのビオトープに生息できるだろうか？と考えてみました。こうら水辺の楽校とビオトープは同じ水系でも魚にとっては環境が違います。流れの速い場所を好む魚にとっては生活しづらい場所になります。このビオトープでくらせる魚について、専門家から聞き、子ども達から今回捕まえた魚は、水辺の楽校に戻した方がいいという意見が出ました。



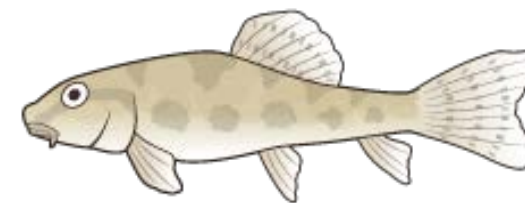
魚が元気にくらせるようお願いながら放流する子ども達

ビオトープに魚を放流

このビオトープには一部水の流れがある場所がありますが、流れがほとんどない場所が多くを占めます。水辺の楽校で捕まえた魚はほとんどがこのビオトープに不向きな魚でした。その代わりに、このビオトープで生息できる魚（ゼゼラ、ツチフキ、ニッポンバラタナゴ、ミナミメダカ、モツゴ）を事前に捕まえていたので、その魚を子ども達が放流しました。



第2回 ツチフキ



“宮ノ陣学びのビオトープ”に繁殖する木や草、生息する魚、昆虫、鳥や季節の情報をお伝えします。
第2回は「ツチフキ」です。

(分布) 九州北西部、山陽地方、近畿地方、濃尾平野
(生息場所) 平野部の湖や池や流れのほとんどない灌漑用水路の浅い砂泥底のところが主な生息場所
(くらし) 雑食性で、ユスリカ幼虫、イトミミズ、浮遊動物、付着藻類などを食べる。「ツチフキ」という名前は川底の砂や泥（ツチ）を口から取り入れて、えらから吹き出す（フキ）特徴から付いたと言われる。口は砂を吸い込みやすいように下向きについている。

出典：日本淡水魚類図鑑、保育社に追記

次号
予告

ホタルをテーマにした冬のイベントのご案内、冬のビオトープの様子などお楽しみに！

